

ヤンバルクイナの親子を追跡せよ！～謎に包まれた野生個体の育雛期に迫る～

NPO法人どうぶつたちの病院沖縄は、沖縄県内の希少種をはじめとした野生動物の救護や保護活動を行っています。ヤンバルクイナの飼育繁殖や生態調査、イリオモテヤマネコの生息環境保全、希少種保全を目的とした猫の保護譲渡など、その活動は多岐に渡ります。

【活動背景】

沖縄島北部のやんばる地域のみで生息するヤンバルクイナは、マングースなどの外来種やロードキルといった様々な要因によって生息数が減少し、過去には絶滅が危惧されていました。その後、多くの関係者の努力により絶滅の危機は回避されたものの、いまだ多くの課題が残されています。個体群存続可能性分析（PVA）を用いて将来予測を行う際は、野生個体群の実態に沿ったデータを用いることでより現実に近い値が出ると期待されますが、ヤンバルクイナの生態は解明されていない点が多く、特に繁殖に関する情報は保全に直結する知見であるため、情報を収集する必要があります。

【活動目的】

個体群存続可能性分析（PVA）を行う際に最も重要なパラメーターの一つが、1歳までの生存率です。ヤンバルクイナは平均4-5個の卵を産みますが、人目につく頃に親鳥が連れてくる若鳥は1-2羽程度に減少していることがほとんどです。そこで、PVAにおいて重要な要素となる1歳時の生存率の算出に必要なデータを収集することを目的とし、親子の様子や連れてくる若鳥の数が減少していく過程をモニタリングしました。



事前のねぐら調査により撮影された成鳥



ヤンバルクイナの親子の様子（若鳥は30-40日齢）

NPO法人どうぶつたちの病院沖縄

【助成金の用途・活動結果】

助成金は、野生個体のモニタリングを行うために野外へ設置するカメラや備品購入等に活用させていただきました。結果として同一親子の継続的なモニタリングに成功し、若鳥の羽数やその変動、親離れまでの経過を追うことができました。これによりこれまでの偶発的な観察とは異なる、信頼性の高いデータを得ることができ、今後はこうしたデータの蓄積をもとに、より正確なPVAの実現に寄与することが期待できます。

【団体からのメッセージ】

今回の助成により、これまで感覚的にしか分からなかったヤンバルクイナの親子の様子や若鳥の羽数の変動を、客観的なデータとして得ることができました。調査地ではその後もペアの様子が観察されているため、いただいた機材を活用して今後も調査を継続する予定です。これからもヤンバルクイナの保全に貢献できるデータを収集し、対策に活用していきたいと考えています。